

## ●●●●● 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 ●●●●●

教育庁指導部 主任指導主事 毛利 元一

「子供の頃の夢は叶っていますか」という質問に、どれだけの方が「はい」と答えられるでしょうか。ある民間会社の調査によると、夢が叶った人の割合は、5人に1人程という結果が。一方、夢は叶わなかったが、仕事にやりがいを感じている人の割合は、5人に4人程という結果も。情報化やグローバル化といった社会的変化が、人間の予測を超えて進展するようになってきている時代ではありますが、学校教育においては、子供たち一人一人が自分の将来に夢や希望をもち、よりよい社会と幸福な人生の創り手となっていけるようにすることが重要です。

さて、各学校や学級においても、年度当初に「こんな子供に育ってほしい」という子供の姿を掲げ、その実現に向け、日々の教育を実践していることと思います。その際、どれだけ具体的な子供の姿をイメージすることができているでしょうか。平成29年に告示された幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び保育所保育指針では、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が新たに位置付けられるとともに、新しい小学校学習指導要領においても、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた指導の工夫が求められています。この姿は、「教育及び保育活動全体を通して資質・能力が育まれている5歳児後半に見られるようになる姿」として、10項目で具体的に示されています。

今後は、この子供の姿を、就学前施設の教職員と小学校の教師とで共有し、子供の発達と学びの連続性を踏まえた教育及び保育の充実を図ることで、これからの社会を創り出していく子供たちが、社会や世界に向き合い関わり合い、自分の人生を切り拓いていけるよう、資質・能力を育てていくことが大切です。

### 掲載内容

- 平成30年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」分析結果と報告書の活用について

東京都教育委員会のホームページ内に「学校教育」というコーナーがあるのを御存じですか？「学校教育」からは、各学校が指導内容や指導方法等の工夫を通して、授業の改善・充実を図るための諸資料をまとめた、各ページに移動することができます。

また、「学校教育」にある「指導資料・報告書等」のページには、様々な事例集や報告書等を掲載しており、メール・マガジン「スクラム」のバックナンバーも、こちらに掲載していません。

是非御覧いただき、参考にさせていただければと思います。  
(東京都教育委員会ホームページアドレス

<http://www.kyoiku.metro.tokyo.jp/> )



- ★ 本メール・マガジンの配信を希望する方は、件名に「メール・マガジン配信希望」、本文に所属・氏名を御入力いただき、[S9000024@section.metro.tokyo.jp](mailto:S9000024@section.metro.tokyo.jp) へメールを御送信ください。



# 平成30年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」及び 報告書の活用について

東京都教育委員会は、平成30年7月5日に小学校第5学年及び中学校第2学年を対象に実施した「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の結果を分析し、平成30年10月25日に公表しました。また、結果をまとめた報告書を都内小学校・中学校等に配布しました。

今回は、結果の分析と報告書の活用について、紹介します。

## 1 結果の分析

### (1) 学力の定着が図られている問題例

◇小学校算数

次の計算をしましょう。  
 $10 - 3 \times 2$

正答 4  
正答率 88.6%

参考：平成25年度  
正答率 78.2%

---

◇小学校理科

電気とじしゃくの性質を利用して、電気を通すか、じしゃくに引き付けられるかについて実験をしたところ、次の【実験の結果】のようになりました。板A、板B、板Cと素材との組み合わせとして最もふさわしいものを、下のアからエまでの中から1つ選び、記号で答えましょう。

【実験の結果】

	電気を通すか	じしゃくに引き付けられるか
板A	通した。	引き付けられなかった。
板B	通した。	引き付けられた。
板C	通さなかった。	引き付けられなかった。

ア 板A：アルミニウム  
板B：鉄  
板C：プラスチック

イ 板A：鉄  
板B：プラスチック  
板C：アルミニウム

ウ 板A：プラスチック  
板B：鉄  
板C：アルミニウム

エ 板A：鉄  
板B：アルミニウム  
板C：プラスチック

正答 ア  
正答率 71.0%

参考：平成23年度  
正答率 52.4%

### (2) 改善が図られつつある問題例

◇中学校英語

英文の流れに合うように、( )内の語を並べ替えた順番として最も適切なものを、ア～エの中から1つ選び、記号で答えなさい。

お店で  
A: I want a new T-shirt.  
B: What ( 1 you 2 color 3 like 4 do )?  
A: I like blue.

ア 4-1-3-2 イ 4-1-2-3 ウ 2-4-1-3 エ 2-1-4-3

正答 ウ  
正答率 53.8%

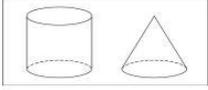
参考：平成29年度  
正答率 42.3%

課題があり、経年で変化を見る必要のある問題については、全教科で改善が図られています。

### (3) 定着が不十分な問題例

◇中学校数学

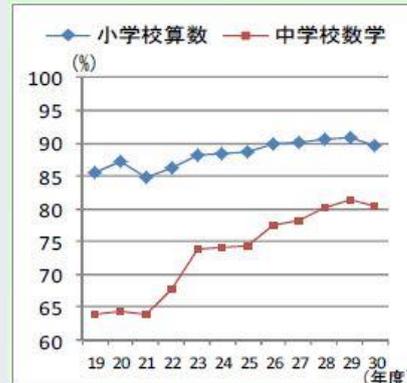
底面積と高さがそれぞれ等しい円柱と円錐があります。このとき、円柱の体積は、円錐の体積の何倍になるか答えなさい。



解答	3	2	$\frac{1}{3}$	その他	無解答
反応率	57.3%	20.8%	7.7%	9.0%	5.2%

修飾と被修飾との関係や、文章から基準となるものを捉え、対象のものを表現することに課題があります。

### (4) 授業内容の理解度



授業の内容が「分かる」と回答した児童・生徒の割合は、小学校において高い状態を維持し、中学校においても増加傾向にあります。

◎取組の方向性として、次の4点を挙げました。

- ・知識・技能の確実な定着、思考力・判断力・表現力の一層の伸長を図るため、新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善を図ります。
- ・単元や内容のまとまりの中で児童・生徒が自身の思考過程を振り返る活動を促進し、思考力・判断力・表現力の更なる充実を図ります。
- ・グループ活動において自他のよさを認め合う学習活動を促進し、主体的に学習に取り組む態度の育成を図ります。
- ・家庭での学習や生活についてまとめた保護者向け「リーフレット」による情報を発信し、学校と家庭、地域との連携の充実を図ります。

◎以下のURLから詳細を確認することができます。

[http://www.kyoiku.metro.tokyo.jp/press/press\\_release/2018/release20181025\\_01.html](http://www.kyoiku.metro.tokyo.jp/press/press_release/2018/release20181025_01.html)

## 2 報告書の活用

教科のページでは、設問ごとの解答類型、誤答の要因の分析が掲載されています。自校で課題となる設問では、どのようなところで児童・生徒がつまづくのかを考える際の参考にすることができます。各教科の特徴のある問題の分析例を紹介します。報告書を活用し、授業改善に生かしてください。

小学校・国語 7

### 【出題の趣旨】

文の中における主語と述語の関係について理解できているかをみる。

### 【問題の概要】

次の文の主語にあたる部分と述語にあたる部分を、次のアからカまでの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えましょう。

わたしの ア かいた イ 絵が ウ コンクールで エ 金賞に オ 選ばれた。 カ

### 【結果分析】

#### 主語にあたる部分

ア	イ	ウ(正答)	エ	オ	カ	その他	無解答
23.8%	2.7%	50.3%	4.7%	1.8%	0.9%	12.3%	3.5%

#### 述語にあたる部分

ア	イ	ウ	エ	オ	カ(正答)	その他	無解答
0.7%	1.1%	5.0%	4.9%	7.9%	62.2%	14.5%	3.7%

#### 完答について

「主語にあたる部分」をウ、「述語にあたる部分」をカと解答している。(完答)	「主語にあたる部分」をウ、「述語にあたる部分」をカ以外と解答している。	「主語にあたる部分」をウ以外、「述語にあたる部分」をカと解答している。	その他	無解答
43.4%	6.9%	18.8%	27.4%	3.5%

### 【誤答の要因】

主語について、主語は人物であるという思い込みや、主語としてよく使われる「わたし」という言葉があること、主語は文頭にあるという誤った理解から選んだことによるものと考えられます。完答について分析すると、主語よりも述語は捉えやすいことが分かります。

### 【正答の導き方の例】

- 1 文の構造から「何が」、「どうした」を表す部分だけを捉える。
- 2 「絵が選ばれた」→主語は「絵が」、述語は「選ばれた」となる。
- 3 「金賞に」は、文の内容を詳しくしている部分だから述語ではない。

### 【授業改善のポイント】 主語と述語について、学年に応じて各領域での指導の充実を図る。

主語と述語の係り受けについては、低学年で学習しますが、学年に応じて指導の充実を図ることが大切です。本問のように指定された文において、主語と述語の関係を捉えることができても、実際に文章を書く際に主語と述語の関係が照応しなくなることが多くみられます。

主語と述語の関係については、特設的に指導することも大切ですが、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」及び「読むこと」の指導の中で常に意識させながら繰り返し指導していくことが重要です。各領域を通して様々な文に触れることで、主語が省略されることや、主語を明確にすることが分かりやすい文になることを理解するとともに、主語は人物、述語は動作というような誤った認識をすることは少なくなっていくと考えられます。

【出題の趣旨】

地図を基に、身近な地域の様子を、四方位から読み取ることができるかをみる。

【問題の概要】

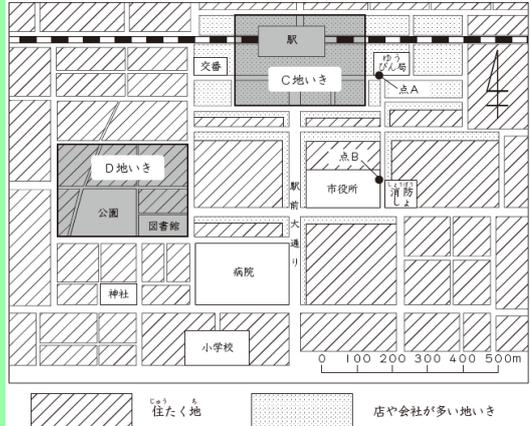
まきさんは、交番から見た郵便局や小学校の位置を、次の【ノート】にまとめています。この【ノート】の中の( ① )と( ② )に当てはまる方位として最もふさわしいものを、下のアからエまでの中からそれぞれ1つ選び、記号で答えましょう。

【ノート】

交番から見ると、郵便局は( ① )にあり、小学校は( ② )にあります。

ア 東      イ 西      ウ 南      エ 北

【わたしたちのまちの様子】



【結果分析】

①ア②ウ (正答)	①をイと解答 (②の正誤は問わない)	①をエと解答 (②の正誤は問わない)	②をエと解答 (①の正誤は問わない)	①②とも誤答	その他	無解答
60.3%	15.4%	6.5%	3.7%	0.0%	9.4%	0.4%

【誤答の要因】

東と西を反対に読み取ってしまったことや、基準となる交番を郵便局と誤って捉えてしまったことによるものと考えられます。

【正答の導き方の例】

- 1 方位記号の上が北、下が南、右が東、左が西であることを確認する。
- 2 方位記号の中心を基準となる交番の位置に重なるように書く。
- 3 郵便局が、交番から見たときに、どの方位に位置しているかを確認する。

【重要！】

基準となる場所は交番であり、答えるのは「交番から見た郵便局の方位」であることを確認する。



【授業改善のポイント】 方位についての指導の充実を図る。

- ・ 方位について東京ベーシック・ドリル等を用いて理解させる。
- ・ 習得したことを活用する場面を設定する。  
(例)見学後にまとめた地図から地域の様子を読み取り、方位を用いて言い表す。  
※「〇〇駅から見て、南には商店街がある。」などのように、地図を見るときには基準があることを捉えさせ、その基準となる場所や建物から見た方位について言い表す活動などを計画的に設定することが重要です。
- ・ 各教科等の学習において活用させる。  
(例)小学校理科における、影と太陽の動きの観察

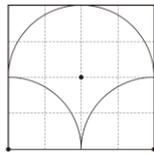
【出題の趣旨】

複合図形を円の部分の組合せとみることができるかをみる。

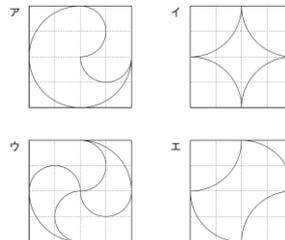
【問題の概要】

みかさんは、コンパスを使って方眼紙にもようをかいています。みかさんは、【図3】のように、3か所にコンパスのはりをさしてもようをかきました。

3か所にコンパスのはりをさしてかくことができるもようを、アからエまでの中からすべて選び、記号で答えましょう。 【図3】



• はコンパスのはりをさしたところ



【結果分析】

ア、エ (正答)	ア、ウ	イ、エ	アのみ	その他	無解答
39.2%	9.4%	9.5%	7.2%	28.6%	6.1%



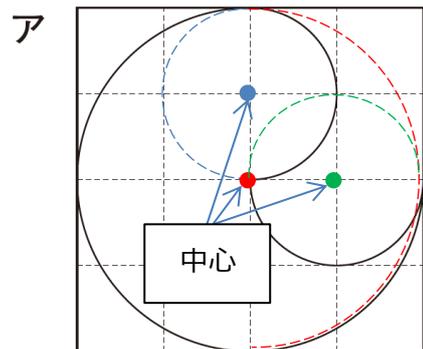
【誤答の要因】

方眼紙にかかっている円の部分をかくための円の中心を捉えることができず、その中心からかく円弧の形がイメージできていないことによると考えられます。

【正答の導き方の例】

- 1 方眼紙にかかっている円の部分に着目する。
- 2 方眼紙にかかっている円の部分をかくためには、円の中心がどこになるのかを考える。
- 3 円の中心だと思われるところに印を付ける。
- 4 印を中心とした円（点線）をかく。
- 5 円の中心の数を確かめ、三つの円の部分で構成されている模様を選択する。

【解決方法の例】



【授業改善のポイント】 作図を通して、円の性質について理解を深める活動を行う。

- ・ コンパスを使って模様をかく際には、円の中心や直径、半径についても意識させながら活動を行わせていくことが大切です。
- ・ 「ここに針を刺すとどのような円がかかるか」ということや「ここに円をかきたい場合、直径は何 cm にすればよいのか」、「半径は何 cm になるのか」という念頭による操作を行わせ、かける円をイメージさせていくことで、円の性質についての理解を深められると考えられます。

【出題の趣旨】

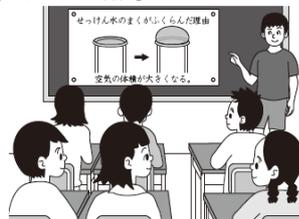
空気の性質と生活への活用場面とを関係付けて考えることができるかをみる。

【問題の概要】

【たくやくんの発表】と同じ理由で起こる現象として最もふさわしいものを、次のアからエまでの中から1つ選び、記号で答えましょう。

- ア 金属のぼうの一部を熱すると、熱したところから順にあたたまる現象
- イ つぶれたピンポン玉を湯につけると、元のような形にもどる現象
- ウ よく晴れた冬の寒い日の朝に、部屋のまどの内側に水てきがつく現象
- エ れいとう庫でこおらせた氷を外に出すと、氷がとけていく現象

【たくやくんの発表】



ぼくは、せっけん水のまくがふくらんだのは、「試験管の中の空気があたためられて、空気の体積が大きくなったから。」と考えました。

【結果分析】

ア	イ(正答)	ウ	エ	その他	無解答
15.0%	72.7%	7.0%	4.0%	0.0%	1.3%

【誤答の要因】

「空気があたためられて、空気の体積が大きくなる現象」を「金属が熱せられた部分から順にあたたまる現象」と同じように捉えたことによるものと考えられます。

【正答の導き方の例】

- 1 空気は、あたためると体積が大きくなり、冷やすと体積が小さくなる性質があることを確認する。
- 2 「ア」は、金属が熱せられた部分から順にあたたまる現象であること、「ウ」は、空気中の水蒸気が冷やされ、水に姿を変える現象、「エ」は、氷があたためられ、水に姿が変わる現象であることを確認する。
- 3 「イ」は、空気があたためられて、空気の体積が大きくなる現象であることから、正答であることを導き出す。

【授業改善のポイント】 学習を通して身に付けた知識を日常生活や自然事象と関係付けて考えさせる指導の充実を図る。

- ・ 「東京ベーシック・ドリル」を用いて理解を確実なものとしす。
- ・ あたためられた空気、水、金属の性質について、日常生活の中で見られる現象と関連付けて考えさせたり、生活の中で使われている道具の仕組みに着目し考えさせたりする場を設定します。

(例) 固くしまった瓶の金属のふたをあたためると、ふたが開きやすくなること。  
 温度計のえきだめには、色を付けた灯油が入っていて、あたためたり、冷やしたりすると体積が変化する性質を利用して温度を測ることができること。

【出題の趣旨】

伝えたい事実や事柄について、自分の考えを根拠を明確にして書くことができるかを見る。

【問題の概要】

富士山を描いた【A】と【B】の二枚の絵を比較し、どちらのほうが富士山の描き方の工夫が優れていると言えるか、自分の考えを文章でまとめる活動に取り組むことになりました。【A】の絵と【B】の絵とを、ここでの目的に沿って比較し、【ワークシート】の【わたしの意見】に入るものとして最も適切なものを、次のアからエまでの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 【A】は人物の様子や表情が分からないので、【B】のほうが人物の気持ちが伝わりやすいように工夫されていると言える。
- イ 【B】は富士山より人物を中心に描いているので、【A】のほうが季節や天候が感じられるように工夫されていると言える。
- ウ 【A】のほうが富士山の存在感はあるが、【B】のほうが視線とともに意識も富士山に向くように工夫されていると言える。
- エ 【B】のほうが富士山を美しく描いているが、【A】のほうが富士山の人気の高さが分かるように工夫されていると言える。

ワークシート

絵面を読み取り、絵面を味わう ― 根拠を明確にして意見を書く ―

意見 B ← 根拠 B

【B】から読み取れること(事実)  
 ・中央に小さく富士山が描かれている。  
 ・人物が大きく描かれている。みんな富士山を見ている。  
 ・ゆがみや原色のき、一番左側にいる人物の描き方が、富士山のほうに向っている。  
 ・富士山の描き方も描かれている。

【B】から読み取ったことの効果  
 人物の描き方、建物や山、富士山が描かれているので、富士山が遠くに見える。自分やその周りの富士山を見ていようとする気持ちになる。

意見 A ← 根拠 A

【A】から読み取れること(事実)  
 ・△から読み取ったことの効果

Y

X

【わたしの意見】の根拠

【わたしの意見】

この絵の描き方が、富士山の描き方の工夫が優れていると認めようか

【結果分析】

ア	イ	ウ(正答)	エ	その他	無解答
10.5%	18.9%	65.0%	4.5%	0.1%	0.9%

【誤答の要因】

「【A】から読み取れること」や「読み取ったことの効果」を基に考えなかったことによるものと考えられます。

【正答の導き方の例】

- 1 【A】は、奥に富士山が描かれ、手前には坂道を登る人や馬の姿が描かれていることを読み取る。
- 2 読み取ったことの効果は、富士山の雄大さが強調されていることだと捉える。
- 3 ワークシートの「【B】から読み取れること」や「【B】から読み取ったことの効果」と比較し、どちらの方が富士山の描き方の工夫が優れていると言えるかを考える。

【授業改善のポイント】 集めた材料を整理し、根拠に基づいて適切に考えをまとめる力を育成する指導の充実を図る。

- ・ 材料を集めさせてすぐに考えをもたせるのではなく、集めた材料を観点に沿って比較、分類、関係付けするなどして整理させながら考えをまとめさせることが重要です。  
 (例) 集めた材料を整理させる際に、着目した事実と事実との関係や、事実から考えられることなどを、図や絵、記号などを用いて整理させ、生徒がそれらの関係を把握したり自分の思考を明確にしたりできるようにします。
- ・ 「書くこと」における指導と併せて、「話すこと・聞くこと」や「読むこと」の学習においても丁寧に指導することが大切です。  
 (例) 話合いや文章を読ませる際に、話や文章の中に含まれる情報と情報との関係を、図や絵、記号などを用いて整理させ、意見と根拠の関係について理解させる指導が効果的です。

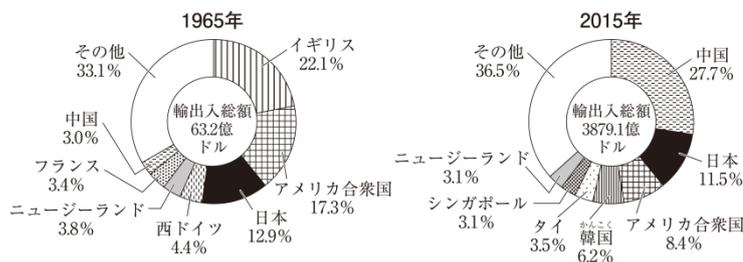
【出題の趣旨】

オーストラリアの貿易の特色について、資料と関連付けて説明することができるかをみる。

【問題の概要】

【資料1】をもとに、1965年と2015年とを比較して考えられることをまとめた文章として最も適切なものを、下のア～エの中から1つ選び、記号で答えなさい。

【資料1】 オーストラリアの貿易相手国の変化



- ア オーストラリアの輸出入総額の割合は、1965年にはヨーロッパ州の国がおよそ30%を占めていたが、2015年にはアジア州の国が50%以上を占めている。このことから、ヨーロッパ州よりも距離が近いアジア州の国と貿易を行うようになったと考えられる。
- イ オーストラリアの輸出入総額の割合は、1965年にはアジア州の国が15%以上を占めていたが、2015年にはヨーロッパ州の国が15%以上を占めている。このことから、アジア州よりも距離が近いヨーロッパ州の国と貿易を行うようになったと考えられる。
- ウ オーストラリアの輸出入総額は、2015年には1965年のおよそ60倍になり、アメリカ合衆国の輸出入総額は1965年に比べて2015年は減少している。このことから、経済の成長が進んだアジア州の国との貿易によって、アメリカ合衆国の輸出入総額が減少したと考えられる。
- エ オーストラリアの輸出入総額は、2015年には1965年のおよそ60倍になり、日本の輸出入総額は1965年に比べて2015年は減少している。このことから、経済の成長が進んだヨーロッパ州の国との貿易によって、日本の輸出入総額が減少したと考えられる。

【結果分析】

ア(正答)	イ	ウ	エ	その他	無解答
51.6 %	8.8 %	28.8 %	9.9 %	0.1 %	0.8 %

【誤答の要因】

輸出入総額の変化は捉えることができたが、アメリカ合衆国の「輸出入総額の割合」は減少しているが、「輸出入総額」は増加していることを捉えることができなかったことによるものと考えられます。

【正答の導き方の例】

- 1 二つのグラフのそれぞれにおけるヨーロッパ州の国の輸出入総額の割合とアジア州の国の輸出入総額の割合を読み取る。
- 2 二つのグラフからオーストラリアの貿易相手国について、1965年はヨーロッパ州の国々とアメリカ合衆国が中心であることと、2015年はアジア州の国々が中心であることを読み取る。
- 3 貿易相手国と輸出入総額の変化を正しく読み取り、アジア州の国々との結び付きが強まったことや、その背景の一つがオーストラリアの位置に関連があると考察することで、正答を導くことができます。

【授業改善のポイント】 空間的相互依存作用や地域などに着目して、主題を設けて課題を追究したり解決したりする活動の充実を図る。

世界の諸地域の学習においては、主題を設けて課題を追究したり解決したりする活動を通して、世界の各州の地域的特色やそこで見られる地球的課題と地域的特色の関係を理解できるように指導することが大切です。

【出題の趣旨】

- (3) 正負の数の除法ができる。
- (4) 累乗を含む正負の数の乗法ができる。

【問題の概要】

次の計算をしなさい。

1(3)  $2 \div (-10) \div 5$

1(4)  $-3^2 \times 7$

【結果分析】

1(3)

$-\frac{1}{25}$ (正答)	-0.04 (正答)	-1	1	0.04	$\frac{1}{25}$	その他	無解答
36.0%	5.9%	41.6%	3.0%	2.2%	1.4%	7.2%	2.7%

【誤答の要因】

(-10)÷5を先に計算してしまったことによるものと考えられます。これは、交換法則や結合法則は除法では成り立たず、それぞれの法則を利用するには、まず乗法に直す必要があることを理解していないことによるものと考えられます。

1(4)

-63(正答)	63	-42	42	その他	無解答
66.1%	21.4%	2.6%	1.2%	7.8%	0.9%

【誤答の要因】

「 $-3^2$ 」を「 $(-3)^2$ 」として「9」と誤って計算してしまったことによるものと考えられます。

【正答の導き方の例】

- 1 計算の順序を確認する。
- 2 除法が含まれる場合、全て乗法に直してから計算する。
- 3 累乗の指数が含まれる場合、符号に注意して計算する。

【授業改善のポイント】 指数の意味や計算の順序を理解し、確実に計算できるようにする。

- ・ このような問題では、計算の順序を理解し、確実に計算できるように指導することが大切です。その際、誤りのある計算例を取り上げ、計算方法を確認する場面を設定することが考えられます。
- ・ 1(3)については、誤答した生徒は、交換法則や結合法則は除法では成り立たず、それぞれの法則を利用するには、まず乗法に直す必要があることを理解していないものと考えられます。このような生徒に対しては、除法を含む式を乗法だけの式に直してから計算することを確実に指導することによって課題が改善するものと考えられます。また、 $2 \div 2 \div 2$ などの単純な問題を示し、前から計算していく、後ろから計算する、乗法だけの式に直す等の作業を行う中で、解法を検討させていくような指導を行い、交換法則や結合法則の適用範囲や、計算の順序について理解できるように指導することが大切です。
- ・ また、1(4)については、正しい計算方法を示すとともに、 $-3^2$ を $(-3) \times (-3)$ と誤って計算した例を取り上げ、 $(-3)^2$ は $(-3) \times (-3)$ を表していること、 $(-3^2)$ は $(-3 \times 3)$ を表していることを理解できるように指導することが大切です。

【出題の趣旨】

植物を分類する条件を考えることができるかをみる。

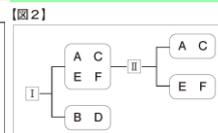
【問題の概要】

【図1】のA～Fの植物を【図2】のように分類しました。分類した条件Ⅰ、Ⅱに当てはまるものとして最も適切なものを、次のア～エの中からそれぞれ1つ選び、記号で答えなさい。

- ア 花の色
- イ 花のつくりや花弁の特徴
- ウ 葉の形
- エ 葉脈の様子

【図1】

A	B	C
花の色 黄色	花の色 白色	花の色 紫色
花のつくりや花弁の特徴 たくさんの小さい花が集まっている。花弁が1つにつながっている。	花のつくりや花弁の特徴 3枚の花弁が別々に付いている。	花のつくりや花弁の特徴 花弁が1つにつながっている。
葉の形と葉脈の様子 	葉の形と葉脈の様子 	葉の形と葉脈の様子 
D	E	F
花の色 紫色	花の色 黄色	花の色 紫色
花のつくりや花弁の特徴 3枚の花弁が別々に付いている。	花のつくりや花弁の特徴 4枚の花弁が別々に付いている。	花のつくりや花弁の特徴 5枚の花弁が別々に付いている。
葉の形と葉脈の様子 	葉の形と葉脈の様子 	葉の形と葉脈の様子 



【結果分析】

Ⅰエ、Ⅱイ(完答)	その他	無解答
61.2%	38.2%	0.5%

	ア	イ	ウ	エ(正答)	その他	無解答
Ⅰ	3.7%	17.2%	13.4%	65.0%	0.2%	0.5%

	ア	イ(正答)	ウ	エ	その他	無解答
Ⅱ	3.5%	71.9%	8.5%	15.2%	0.2%	0.6%

【誤答の要因】

Ⅰで「イ」とした誤答の要因として、BとDの花のつくりや花弁の特徴が同じであるため、分類する条件だと考えたことによるものと考えられます。Ⅱで「エ」とした誤答の要因として、花の色や葉の形で分類していないことは理解しているが、植物の特徴と分類の条件を関連付けて理解していないことによるものと考えられます。

【正答の導き方の例】

- A、C、E、FとB、Dとにそれぞれ共通する植物の特徴に注目し、葉脈が平行のものと、網目状のものがあることを捉える。
- A、CとE、Fとにそれぞれ共通する植物の特徴に注目し、花弁が一つにつながっている植物と、花弁が1枚ずつ分かれている植物とがあることを捉える。

【授業改善のポイント】 野外観察等を行い、植物の特徴を見いだす指導の充実を図る。

野外観察等を行う際には、観察の結果から結論を導き出してまとめを行うだけでなく、観察するときに注目する点を事前に与えることが大切です。様々な植物の特徴について、共通点と相違点に注目させ、仲間分けをさせる指導を行い、植物の特徴を整理して、植物を系統的に分類するためにはどのような方法があるかを考える力を高めていくことが大切です。

【問題の概要】

示された場面において、英文の流れに合うように、( )内の語を並べ替えた順番として最も適切なものを、ア～エの中から1つ選びなさい。

<お店で>

A : I want a new T-shirt.

B : What ( 1 you 2 color 3 like 4 do ) ?

A : I like blue.

ア 4-1-3-2      イ 4-1-2-3      ウ 2-4-1-3      エ 2-1-4-3

【結果分析】

ア	イ	ウ(正答)	エ	その他	無解答
40.3%	3.6%	53.8%	1.3%	0.4%	0.6%



【誤答の要因】

「What+名詞」で始まる疑問文の形式が十分に定着していないこと、「What do you like~?」という定型表現のみが固定的に定着しており、「What」と「do you like~?」の間に名詞が入ることを十分に理解できていないことによるものと考えられます。

【正答の導き方の例】

- 1 Aの発言から「AがTシャツをほしがっていること」、「Bの発言に対して、Aは自分の好きな色を答えていること」が分かるので、Bの発言は「Aに対して買いたいTシャツの色をたずねているのではないか」と判断する。
- 2 Bの発言が「What」から始まる疑問文であることを確認する。
- 3 ( )内に並んでいる単語から、まず「do you like」という疑問文の形をつくる。
- 4 「color」が入る位置を考える。文脈から、Bは「どんな色なのか」をAに尋ねているので、「What color」という形になると判断する。
- 5 3と4でつくった二つの部分をつなぎ「What color do you like?」という英文をつくる。

【授業改善のポイント】 活用を通じて既習事項の定着を図り、表現の能力を高める。

- ・ コミュニケーションを行う目的、場面、状況等に応じて具体的な課題を解決する言語活動を設定し、その中で既習事項を繰り返し活用させます。

(例) 2年生の新しいクラスで「お互いに自己紹介をしよう」という課題を設定し、自己紹介への追加質問として、お互いに「What ○○ do you like?」を何種類か質問する。

※「○○」の部分に様々な種類の単語を当てはめて発話することで、「What do you like?」という一つのかたまりだけでなく、「What」と「do you like」の間に様々な単語を入れた表現もあるのだということを体験的に理解することができる。

- ・ 生徒が書いた英文の添削結果をフィードバックする場面や、多くの生徒に共通して誤りの見られる文法事項や語彙、表現等について生徒全員と共有する場面などを設定します。